



平成10年10月3日付の日刊スポーツから



# 潮陵7年ぶり代表

第78回全国高校ラグビー大会の1回戦各4試合を戦い、すべてワンサイドゲームとなった。

潮陵は、七連覇を目指す。南大有が堅実なプレーで札清田を下し、好スタートを切った。初陣の札清田は100-0で名門の芦別に、札清田の手も苦工にそれぞれ大勝。七年ぶりに出場した潮陵は苦南を大差で下し、二十七年ぶりに初戦を突破した。

全道高校ラグビー新人選手権勝ち上がり

北見北斗	62	0
帯広工	40	0
帯広南	12	0
帯広東	5	0
中標津	100	114
帯広五湖	0	0
函館北	94	7
札清田	58	7
芦別	0	0
帯広	0	0
札清田の手	41	114
帯広別荘	0	0

## 新人戦で12強

北大会の1回戦各4試合を戦い、すべてワンサイドゲームとなった。

南大会は、七連覇を目指す。南大有が堅実なプレーで札清田を下し、好スタートを切った。初陣の札清田は100-0で名門の芦別に、札清田の手も苦工にそれぞれ大勝。七年ぶりに出場した潮陵は苦南を大差で下し、二十七年ぶりに初戦を突破した。

## 苦南を73-7の大差で下す

【苫小牧】第五十一回全道大会は、苫小牧市緑ヶ丘公園ラグビー場、北見選手・丘公園球場で開幕し、南道大会は、七連覇を目指す。南大有が堅実なプレーで札清田を下し、好スタートを切った。初陣の札清田は100-0で名門の芦別に、札清田の手も苦工にそれぞれ大勝。七年ぶりに出場した潮陵は苦南を大差で下し、二十七年ぶりに初戦を突破した。

栄誉をたたえて  
北海道小樽潮陵高等学校  
平成10年度  
全道高等学校体育大会  
ラグビーフットボール  
南大会第3位  
不断の努力と輝く勝利の  
栄光に敬意と賛辞を贈ります  
平成10年10月3日  
北海道高等学校体育連盟  
会長 作田昌明

勝利の栄光に  
敬意と賛辞を  
一と表彰状

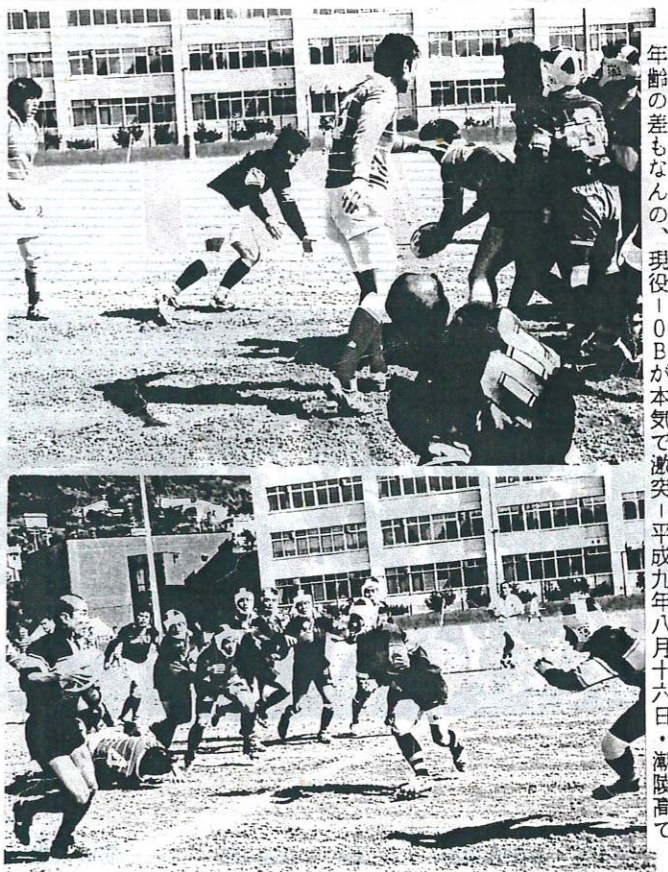
樽潮陵、27年ぶりの勝利

【苫小牧】第五十一回全道大会は、苫小牧市緑ヶ丘公園ラグビー場、北見選手・丘公園球場で開幕し、南道大会は、七連覇を目指す。南大有が堅実なプレーで札清田を下し、好スタートを切った。初陣の札清田は100-0で名門の芦別に、札清田の手も苦工にそれぞれ大勝。七年ぶりに出場した潮陵は苦南を大差で下し、二十七年ぶりに初戦を突破した。



苦南を73-7の大差で下す

【苫小牧】第五十一回全道大会は、苫小牧市緑ヶ丘公園ラグビー場、北見選手・丘公園球場で開幕し、南道大会は、七連覇を目指す。南大有が堅実なプレーで札清田を下し、好スタートを切った。初陣の札清田は100-0で名門の芦別に、札清田の手も苦工にそれぞれ大勝。七年ぶりに出場した潮陵は苦南を大差で下し、二十七年ぶりに初戦を突破した。



フアイトー！ それっパスだっ

年齢の差もなんの、現役OBが本気で激突！平成九年八月十六日、潮陵高で

龍徳寺側でボール遊び  
4年目から道大会に4連続

元顧問・武田庸雄先生  
平成十年十月一日午後三時ごろ、野津寿一潮陵学校長から「きのう全国高校ラグビー大会の道予選で、二十七年ぶりに初戦を突破した。二十七年前の初戦突破の対戦校や得点を覚えていませんか」と突然、電話がかかってきた。



私には潮陵高校に七年間勤務したが、当初のラグビー部は練習場所もなく、龍徳寺側のインゴルド内で二、三人から七、八人でボール遊びというぐあいだった。その年、インターハイ地区予選が岩内で行われ、一回戦で当然、岩内高校に負けた。帰りの汽車の中で、翌年に向けてミーティングし、部員全員がグラウンドに集まり、準備体操だけでも毎日しようと思った。次年度の主将・高橋昭君を中心に、本格的な部活動を開始し、徐々に基礎が築かれていった。しかし他校に比べて練習時間が短く、体力不足や軽体重のため、できるだけボールをオプンに散らし、相手のディフェンスのギャップをつくり、トライを速げる戦法でゲームを展開した。それでも、藤江先生が指導する桜陽高校になかなか勝つことはできなかった。

その時のレフェリーは、小樽市総務部長で後に市長になった志村先輩(梅中32期)だった。顧問の中山先生は「ラグビーは紳士のスポーツ」と自負していたのはいが、本人はラグビーの由来をよく理解していなかったのではないかと感じる。練習場がなく、通学路で柔軟体操し、銀葉荘までランニング。その後、ソフトボールの一部を借りてバス、タックル、スクラムの練習。ほかの部の練習が終わるまでグラウンドがあくのを待って本格的な練習開始。そんなことも、私には忘れられない有意義な、青春の一ページに聞いたなら、僕らの試合は四年目から四年連続。一回戦突破は二回ある。一回目は第22回の中標津大会で、二年生が見学旅行に行っていて部員不足のため、他部の主将を臨時に補充して出場。夕張南高を9-6で撃破。準決勝に勝てば、二年生が決勝に駆けつけるという土壇場で、W君のクイック・スローインが真目に出て、室蘭工業高に0-14で敗退

し、涙をのんだ。二回目は第24回の富良野大会。美唄工業高に20-18で勝ち、準決勝で函館工業高に4-22で負け、函館工業高が優勝した。この時の三年生は長谷川浩主将と砂原都夫副将、境君の三人。レギュラー十二人が残る翌年に向け、全道制覇を夢見て練習に励んだが、三月異動で岩内転動になった。

お知らせ  
会費・寄付等は下記へお振り込み願います。  
銀行名：小樽信用金庫奥沢支店  
口座番号：普通 0068130  
口座名：久保壽史(トシフミ)

ラグビー部との関わり  
私がラグビー部に入部したきっかけは、ラグビー部の中島先輩(56期)の勧誘だった。一年の六月はじめ、同級の石橋君から「いま入部するとレギュラーになれるぞ。入部しないか」と誘われた。何部か聞くとラグビー部とのこと。上級生がいたが、下級生が入部せずに自然消滅したという。「上級生に気兼ねする」ともいらない、わけも分からず入部すると、いきなり花園グラウンドの試合に出された。対戦相手は北照高校。試合が始まって間もなく、レフェリーから「試合にならないから、帰ってラグブックを読み、練習してから出場するように」と怒られ、途中で帰った。

練習場がなく、通学路で柔軟体操し、銀葉荘までランニング。その後、ソフトボールの一部を借りてバス、タックル、スクラムの練習。ほかの部の練習が終わるまでグラウンドがあくのを待って本格的な練習開始。そんなことも、私には忘れられない有意義な、青春の一ページに聞いたなら、僕らの試合は四年目から四年連続。一回戦突破は二回ある。一回目は第22回の中標津大会で、二年生が見学旅行に行っていて部員不足のため、他部の主将を臨時に補充して出場。夕張南高を9-6で撃破。準決勝に勝てば、二年生が決勝に駆けつけるという土壇場で、W君のクイック・スローインが真目に出て、室蘭工業高に0-14で敗退

ルール知らずに初戦  
風呂屋でジャージー洗濯  
藤中博文

もの、洗濯だけは文句を言われたものだ。三年の秋の国体地区予選で、手宮グラウンドで岩内高校と対戦することになった。雨がしとしと降る中、高橋がしとしと降る中、ゴウケツをもらい、ジャージーに着替えていたら、何か様子が変。レフェリーに聞いたら、僕らの試合は

翌日と分かった。中山先生の記憶違いという次第。学校に戻るわけもいかずジャージーのまま雨に濡れながら栗拾い。風邪を引いて翌日の試合にも出れず。二日後に登校すると、風邪引きが多く、出場者不足で不戦敗だったとのこと。その後、この一件については仲間で話題になったことはなかった。昔の思い出は、筆舌に尽くし難い。後輩たちの大健闘を耳にするにつけ、青春の日々が走馬灯のごとく脳裏を駆け抜ける。成田先生の卓越したご指導のもと、現役諸君にはもっともっと活躍してもらいたい。ああ潮陵に眠るは鳴る！OBの皆さん、現役の活躍を信じ、ともにこう花園ラグビー場目指して！(長文のため一部削除)

桜陽を爆勝16トライだ

【苫小牧】第五十一回全道大会は、苫小牧市緑ヶ丘公園ラグビー場、北見選手・丘公園球場で開幕し、南道大会は、七連覇を目指す。南大有が堅実なプレーで札清田を下し、好スタートを切った。初陣の札清田は100-0で名門の芦別に、札清田の手も苦工にそれぞれ大勝。七年ぶりに出場した潮陵は苦南を大差で下し、二十七年ぶりに初戦を突破した。

## 毎日2時間の練習

平成10年度 潮陵ラグビー部 全成績

5月	潮陵Aチーム優勝
5日	小樽セブンス
31日	国体地区予選
7月	国体後志地区代表決定戦
20日	国体北海道予選会
27日	選抜大会地区予選
25日	選抜大会
12日	全道1年生大会
1日	高体連地区大会
28日	高体連全道大会
12日	全道新人大会

### 日体大で4年間ラグビー漬けの成田監督

#### 樽潮陵ラグビー部紹介

**成田監督** 恵庭をた間治合、父は、明大でラグビーをやっていた。高校時代は、毎日ラグビー漬けで、部室に眠っていた。部旗が、一番デザインが良く、目立っていました。

**辻村コーチ** 勤王の時に、ラグビーを始めた。現在は、監督として、チームを引っ張っている。口数は少ないが、練習は、毎日、厳しく、選手は、みんな、泣いて、涙を流している。試合後の選手たちを、安んずる監督は、一柳瀬だ。

**高橋(主将)** 入部時は、言葉遣い、挨拶等、ろくにできていない。練習は、毎日、厳しく、選手は、みんな、泣いて、涙を流している。試合後の選手たちを、安んずる監督は、一柳瀬だ。

**関川(副将)** 負けず嫌いな性格は、チーム1、ラグビーにたいする情熱も強く、1年生全道大会では、キャプテンとして優勝に貢献した。攻撃的なタックルが、うりで、チームメイトの信頼度は、抜群である。

**佐藤(副将)** 野球部1日入部後にラグビー部へ入部。運動センス抜群で、1年よりウイングとして出場。新チームでは、スタンドオフとしてバックスをリードしている。将来が、たのしみな選手の1人である。

**廣田** 毎日朝練習に、くる努力家で、ラグビーに、すっかりはまっている。そのせいか、勉強のほうは、・・・

**宮田** 通称「シャコタン」と呼ばれ、その低いプレーは、何度もピンチをすくって、きた。「ちくしょ〜」など、大声をはきながら、タックルに入る姿は、将来、大物の予感さえ感じる。

**佐々木** 恵まれた体つきは、チーム1である。しかし、新人全道大会前の練習で、頸椎をいたため、約2カ月の入院。現在は、退院し、学校に登校しているが、ハビリ等、復帰は、来春とおもわれる。

**山田** 荒々しい性格は、ラグビーに、うってつけ。荒々しい性格は、ラグビーに、ピッタリである。下半身が安定しており、あたりが強い。多少、元気がよすぎていると、指導されているようだが、ラグビーむきで、良いと言っているのは、潮陵で、私が、けかも、しれない。

**柳瀬** チーム1の長身-加速すると止まらず。チーム1の身長で、ロックとして、1年よりレギュラー。ふところが、ふかく、ストライドが、長い。ため、加速すると、なかなか、とめられない。悩みは、わいた、耳と、抜け、毛、そう、だ。

**ハッ橋** 基礎体力あり、センスも、将来は、ハーフ。佐藤といっしょに、野球部より、基礎体力もあり、センスも、よい。将来、ハーフとして、北海道を、代表する、選手になると、おもわれる。(ラグビー部、停学組1号・・・飲酒)

**嶋田** 緩急ある走り-攻撃基点の能力は、抜群。緩急のあるランニングは、これから、潮陵の、攻撃の、基点となる。スペースを見つけた、すべは、抜群である。しかし、勉強の、能力は、学年で、後、に、何、人、か、しか、い、ない、よう、である。

**小林** 持久力に、すぐれ、攻撃的、な、タックル、が、魅力、である。現在は、バックス、だ、が、フォワード、コンバート、も、考えて、いる。(2学期、保健、テスト、担当、私、36点、クラス、最低、点)

**練習道具を、ありがたう**  
OBの皆様へ、多大な資金や練習道具を、ご支援下さり、本当に、ありがたう、ござい、ます。私たち、一同、心から、感謝、しています。何年、か、前に、頂き、ながら、部室に、眠、って、いた、部旗を、やっと、全道、大会で、披露、でき、ました。潮陵の、部旗が、一番、デザインが、良く、目立、って、いま、した。

全道大会の経過と戦績、自分で感じたことを簡単に報告します。  
一回戦は、苫南高戦で、73-7で、大勝、しました。他の、勝ち上がり、チームは、ほぼ、百点、ゲーム。潮陵は、爆発力、がある、わけ、ではない、ので、とり、あ、えず、は、73点、でも、良かった、と思、います。

技術、体力、筋力、環境、意識、伝、統、一、全、て、の、面、で、か、なり、の、差、が、ある、のは、現、実、で、す、が、潮陵は、まだ、発展、途、上、の、チ、ー、ム。来、年、か、再、来、年、に、は、絶対、目標、を、掲、げ、必、ず、花園、ラグビー、場、に、行、っ、て、く、れ、る、と、信、じて、いま、す。

**脚力アップトレーニング**  
住吉神社の境内へは、心臓破りの階段



**みんな、気合、入、っ、て、善、戦**  
三年生、たちが、引、退、して、新、主、将、に、な、った、高、橋、です。今、シーズン、は、い、ろ、い、ろ、の、支、援、を、頂、き、な、が、ら、全、道、大会、前、に、開、いて、頂、いた、辻、村、会、で、は、みんな、気、合、が、入、り、い、い、状、態、で、試、合、に、臨、み、一、勝、す、る、と、ともに、全、道、常、連、の、有、斗、を、苦、し、め、大、きな、自、信、と、な、り、ま、した。

で、また、まだ、全、道、との、差、を、感、じ、ま、した。全、道、常、連、高、との、差、を、少、し、でも、縮、め、ら、れる、よう、冬、場、の、トレ、ー、ニ、ン、グ、に、励、み、「今、年、よ、り、い、い、戦、績、を、」目標、に、頑、張、り、ま、す。今、後、と、も、よ、ろ、しく、お、願、い、し、ま、す。

教職と部員指導で多忙な中、成田監督が愛情あふれる部員紹介を寄稿してくれました。

### 全国大会出場を夢見て



#### すっかり自信つけた樽潮陵ラグビー部

**【苦小牧】**ラグビーの第一、五十回全道高校南・北選手権第一日は、苦小牧市緑ヶ丘公園球技場で、北の準決勝各2試合を行った。南大会は、札山の手が、潮陵を下して、初の決勝進出を果たし、函大有斗は、前半、59-13で勝った。

潮陵の堅守に苦しんだが、59-13で勝った。潮陵の堅守に苦しんだが、59-13で勝った。

の守りは、素晴らしい。相手は、体を張っている。おま、え、た、ち、は、強、く、や、つ、て、い、る、ん、だ、と、一、喝、し、た。一方、潮陵に、対、して、は、堂々、と、3、位、と、言、え、た。ただ、一人、の、二、年、生、で、フ、ラ、ン、カ、ー、の、高、橋、は、一、南、大、会、が、決、して、勝、て、な、い、と、こ、ろ、で、は、な、い、こ、と、が、分、か、つ、た。必、ず、先、輩、に、続、く、と、来、季、の、頑、張、り、を、誓、っ、て、い、た。

1行目	役割	名前	学年	身長	体重
2行目	ポジション	身長	身長	身長	身長
3行目	得意なプレー	得意なプレー	得意なプレー	得意なプレー	得意なプレー
4行目	出身	出身	出身	出身	出身



副将 佐藤嘉祐 2年 SO 175cm 64kg キック、スピード 北山中(野球)  
主将 高橋直希 3年 FL 170cm 66kg タックル、ラック 朝里中(羽球)  
札幌・光星高からラグビーを始め、札幌学院大へ。樽消防局勤務で潮陵を指導。HO 171cm 82kg 29歳 恵庭南-日体大 花園めざし頑張る



佐々木貴一 2年 PR 175cm 85kg 筋力、パワー 朝里中(卓球部)  
宮田晃良 2年 HO 160cm 66kg タックル 望洋台中(陸上部)  
尾形啓介 2年 WT 183cm 67kg 走力、スピード 松ヶ枝中(サッカー)  
櫻庭由則 2年 FW 166cm 52kg ステップワーク 石山中(サッカー)  
広田すばる 2年 PR 171cm 67kg ラック、モール 西陵中(羽球)  
副将 関川淳司 2年 FL 174cm 71kg タックル 長橋中(サッカー)



マネージャーたち



1年 佐々木広美 小友奈美子 川合美希 中川寧麻  
嶋田寛 2年 CTB 175cm 65kg 瞬発力、スピード 東山中(野球部)  
小林賢幸 2年 CTB 170cm 69kg タックル 東山中(野球部)  
山田岳行 2年 LO-FL 175cm 70kg コンタクトプレー 石山中(バスケット)  
柳瀬大輔 2年 身長 180cm 74kg ライオンアウト(野球) 長橋中(野球)

敗戦から2年後の昭和22年、潮陵ラグビー部は誕生した。創立に関わった私たち43期生が、旧制小樽中学校5年生の時だった。戦後の混沌とした中で、野球、陸上、スキー、テニス、バスケット、ボート部などは、いち早く活動を始めていた。だが、授業の正科目だった剣道、柔道など日本古来の武道は、アメリカGHQの指示で禁止、部活動もできなくなった。

そうかといって、急に他の部に入っても使いものになるものでない。そこで、アブレた者たちが、体育の安井孝司先生に相談した。日体大出身、潮陵の先輩で剣道部長。満州から苦労して引き揚げてこられたばかりの先生は、行き場を失った部員の悩みに、真剣に耳を傾けてくれた。「フットボールはどうかね」先生の提案にみんな目を輝かせた。

「開球」の日本名で海軍兵学校や陸軍士官学校でラグビーが行われたのは、知っていたが、サッカーは別世界のスポーツだった。「サッカーは足しか使えない。ラグビーは手も足も、タックルは体全部を使ってよいルールだ」の説明を耳にして、ラグビー部の設立に全員が賛

# リレ 雑記帳

①

小樽市内のラグビートームは、社会人が小樽ラガーと東洋製罐、それに小樽経専(現商大)、あとで小樽工業(現千秋)が加わった。小樽ラガーは安井、関川、志村(32期、元小樽市長)らが中心選手、東洋製罐はこれまた箕輪正治先輩(22期)がコーチ。公園グラウンドで練習試合をやっていた。わが潮陵チームも胸を貸してもらった。レベルが全く違った。だが、ラグビーに血を燃やす少年たちに寄せる愛情は感じられた。小樽経専、小樽工業とも親善試合をしたが、これだけは、潮陵の方が強かった。

初の全道大会は、優勝候補の札商と雨の中の熱戦。6-0で敗れたが、その健闘は安井先生から大いに褒められた。新制高校になってからの全道大会の相手は、これまた全国的に知られる強豪・市立函館高校。コテンパンにやられた。同校には、後に全日本のメンバーになる橋本兄弟の弟がキャプテンとして活躍していた。

潮陵ラグビー部のOB会が相川君(62期)、白方君らの肝入りで結成され、克明な名簿が作られ、毎年、母校の潮陵グラウンドで現役選手との紅白試合が行われ、親睦会が開かれている。潮陵ラグビー部の存在は、創立のわれわれ43期の中でも知る者が少なく、「幻のラグビー

## ルールを細やかに説明

43期・棚部保徳

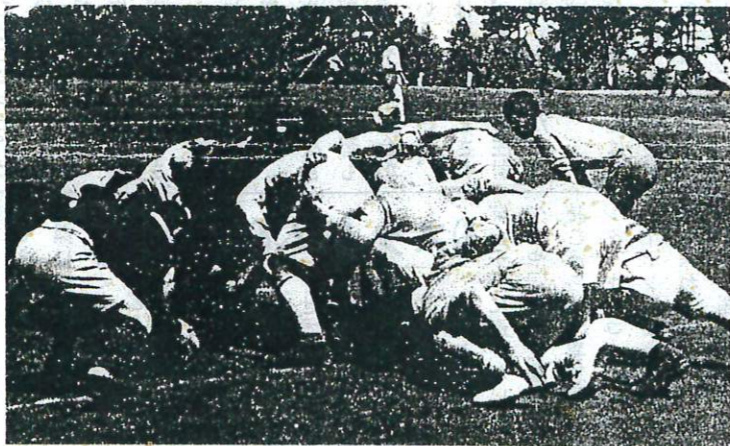


傘を手に泥んこ試合を観戦する棚部氏(中央)

部」とさえ言われた。

しかし、43期同期会会報の第18号(昭和50年5月発行)に「潮陵ラグビー部を創った男達」として、安井、関川両先輩を囲み、思い出を語り合う座談会記事が登場している。ラグビー部OB会報の創刊を機に、その後の歩みがリレー式に記録され続けられれば、後輩たちへのよきプレゼントとなろう。

## スクラム組んで熱戦展開



花園グラウンド狭しと駆け回る樽高ラガーたち

## 「自己犠牲のスポーツで壮美」

成した。

日体大でラグビー部員だったという安井先生は、ルールブックを保管しており、入部希望者を教室に集め、難しいルールを細やかに説明してくれるのだった。「ラグビーは自己犠牲のスポーツ、他人にトライのチャンスを与え、それがだれにも知られない時ほど壮美なのだ」のラグビー精神が、敗戦で価値観を失っていた部員たちを奮い立たせた。

「独走をするな。3歩以内で、ボールをパスしろ」、「レフェリーは事実のただ1人の認定者、間違った判定と気づいても訂正、抗議はできない」、「血の小便が出るまで練習。すりむいたら薬を塗るよりも、水道で洗い流せ」—こうした指導も抵抗がなく、むしろ痛快だった。練習は毎日、初心者集団だったから真摯、関川吉郎先輩(32期)が安井先生とともに指導してくれた。

練習場所は現校舎、後の丘の山上グラウンド、他の部が使っている時は花園公園グラウンドへ足を伸ばした。公園グラウンドには、石炭殻が敷き詰められていた。転ぶとすりむける。傷は指示どおり、水道で洗う。スパイクはないから地下タビ、ジャージーは手製のセーター、パンツもゴワゴワのテント生地。走ると皮膚が擦り切れた。



紅顔-熱血の美少年たち

### 卒業記念撮影

創部の43期生

- スタンドオフ・佐々木
- ウィング・高山
- フッカー・若松
- ウィング・三浦
- フォワード・八木
- センター・吉岡
- ハーフ・棚部
- フルバック・朽木
- バック・
- センター・吉岡



△セピア色になりかけた青春の日のアルバム(69期・大川)

<明日を夢見たみんなは若かった>

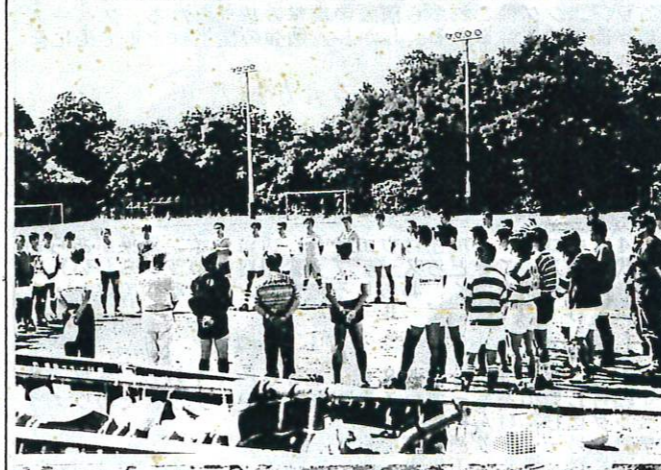
▽後列・左から笹崎、砂原、大屋、島野、岡崎、二本松



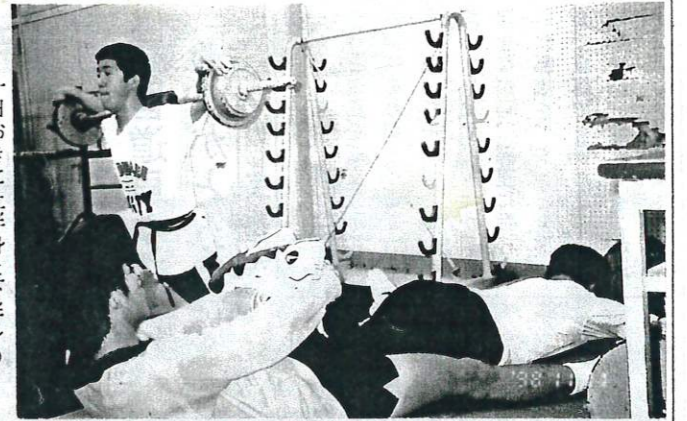
△前列・左から山下、高橋、武田先生、間、谷内(?)



△「これぞラグビー」と雨中でも夢中(平成10年)



△「ファイト!最後まで気を抜かず頑張ろう」(平成9年)



一日おきに上半身と下半身のトレーニングが休みなく続く



早起きは百文の得  
朝の練習は自発的  
ラインアウト、パス練習

頑張れ後輩! 練習に熱中  
遠き青春の日々懐かしく



▷先輩たちの寄付でフリーウエイトを買って練習中です



「こりゃ、まるで池だっ!」—それでも練習



まだまだ若い

「それっ、ゴールへ独走だっ!」

私とラグビー

61期・高橋 昭

わがラグビー部に入部した昭和三十九年には、練習に十五人が揃うことも稀で試合に勝ったという記憶もない。高校二年の時に、新米教師で赴任してきたのが函館有斗高校出身、日体大卒の武田庸雄先生だった。

がっしりした体格、ギョロリとした眼、函館弁で、練習時には、何回でも自ら身をもってプレーの指導

身をもつて指導

武田先生は「中興の祖」

飾りつけない態度、とてもそれまでの潮陵高校教師タイプには見えなかった。練習に部長が捕



ラグビーの喜びを覚えたお陰で、私は会社で三十六

うようになり、高校三年になると勝つようになった。

歳までプレーを続けることができた。わが潮陵ラグビー部にとって、武田先生は「中興の祖」と言えるかも知れない。最後に間君、岡崎君、谷内君、砂原君、笹崎君、大屋君、山下君、二本松君、島野君のご活躍を祈っています。



少年団を指導し12年



過士と現在と 65期・糸田孝之

「ブーサイド」発刊に当たり、私の過去・現在・未来を書いてみたい。私は高校一年で入部、三年間、武田先生や優しい諸先輩のもとでラグビーに親しんだ。その後、三年くら

いブランクがあったが、クラブチームを経て、今は不惑チームで楽しんでいる。五月から十月まで毎日曜日、グラウンドで汗を流し前夜のアルコールを抜こうと努力するが、その後すぐ酒宴、そして賑しい月曜日の出勤。「ワカッチャイルケド、ヤメラレナイ」二十数年を続けている。シーズンオフの日曜日はラグビーのTVやVTRで仲間と酒盛り。一年の休日があつという間に過ぎる。

親友を失い 果然自失

ラグビーとの 出△云いと先九輩

69期・大川剛司

三十数年前のことになろうか。実家が潮陵高に近かったこともあり、友達とグラウンドで野球をしたり、秋口の雨上がりにはよくトンボ採りに出かけた。グラウンドには大きな水溜まりができていて、そんな中を駆け巡る集団がいたことをよく覚えていた。その集団がまさしくわが潮陵ラグビー部の大先輩たち。それが私とラグビーとの出会いで、まさか自分がやるなど夢にも思わなかった。泥だらけで駆け回る集団の中には今もお世話になっている先輩たちがいた。ただ一人ボールを蹴って走り回る相川先輩の姿を今でも思い出す。

の指導員として十二年くらい続けてきた。少年団からは、昨年の潮陵キャプテンの比良君ら、函館有斗など他校のキャプテンを任せられたラグビーたちが集立った。体が続く限り今後もラグビーに関わってみたい。後輩たちの昨年の活躍には、OBの一人として大変嬉しく、今年も強いチームを期待している。

時は流れ、昭和四十七年潮陵高に入学し、ラグビーを始めることになった。だが高校時代のラグビー生活は順風満帆ではなかった。校庭の改修工事で平磯公園や近くの空き地で練習せざるを得ない時期もあり、二年生の夏には親友の本間則行君が不慮の死を遂げた。上級生や下級生が相次ぎ退部し、部員不足で練習もままならず、やっと試合ができるという状況が続き、三年の時は腰痛に悩まされ病院通い、痛み止めの注射を打って試合に望んだこともあった。とりわけ本間君の死はショックだった。入学当時、全国制覇の経験もあり伝統のあるポート部に入ろうと

妻に永遠の愛を誓う

私とラグビー

63期・箕原武夫

二年生の春、誰も誘ってくれないので、一人で体育教官室へ入部申し込みに行つてから三十三年間、ずっとラグビーをしている。千葉商大(当時、関東リーグ三部)を卒業し、小梅

に帰ってきてからは、小梅ラグビーに二年、小梅蹴球会に十年、そして現在は小梅オイズクラブで、小梅ラグビースクールの子供達と一緒に、元気にラグビーを楽しんでいる。

今年で四十九歳、黒パンをはくことになり、この先

潮陵ラグビー部の良き先輩、後輩に恵まれ(同期には恵まれてません)本当に幸せだと思ふ。二十九歳の時、アキレス腱を断絶し、ラグビーをやめようと思つた時、「もう一度やってみなさい」と、新しいスパイクを買って励ましてくれた妻に、永遠の愛を誓う。

スクラム

在部中、練習もせず戦績もなく功績もなく、卒業後もラグビーと無縁の小生が、会報の編集に携わるとは笑止千万に違いないが、先輩や同期、後輩の原稿を読もうちに、喜怒哀楽一ヶンタッキーコロネルの高級パーボンのような、爽やかさを味わった大至急、編集してお届けする。(間)